

落語の語り手たち  
3席の落語を題材にした短編オムニバス映画  
7人の落語家のインタビューを併せたもので

# 落語オムニバス映画

the RAKUGO-MOVIE

山田孝之、加藤貴子、田島ゆみか、桂三四郎

安田顕、戸次重幸、音尾琢真、本田翼、西方凌、村上健志(フルーツポンチ)、斉木しげる

田中要次、亘健太郎(フルーツポンチ)、近藤春菜(ハリセンボン)、箕輪はるか(ハリセンボン)

三遊亭小遊三、春風亭一之輔、春風亭びっかり、笑福亭鶴光、立川志らく、林家三平、柳家おさむ

監督：松井一生、坂下雄一郎、遠藤幹夫 音楽：HARCO





「らくごえいが」は、「落語の映画」ではありません。  
「古典落語」の演目を原作としながらも、舞台を現代に置き換えた「らくご」の映画です。  
落語家・桂三四郎が、落語には欠かせない「枕」で3本の短編映画をナビゲート。  
まるで、3席の落語を楽しむようなカタチに仕立てています。

さらに注目していただきたいのは、若手から大御所まで7名もの落語家さんから届いたコメントたち。

映画をご覧頂いた感想を、インタビュー映像として取めています。  
皆様のご感想と、落語家さんのそれとを比べてみるのも面白いかも知れません。

「古典落語」を原作としながらも、舞台を現代に移すという試み。  
落語家のインタビューから始まり、インタビューで締めるという試み。  
「古典落語」を映画化する過程までも映画に仕立てた、「ドキュメンタリー映画」的な試み。

新しい試みを盛り込んだ分、いくつもの高いハードルにぶち当たりました。

でも、やってみないとわからない。作らずに諦めるなんて悔しい。

そんな私たち東京芸大生の思いに共感し、

お力を貸して下さったキャストや外部スタッフの皆様のおかげで、

この映画をカタチにすることができました。

心から感謝しています。

それでは、映画館で、皆様とお会いできることを楽しみにしております。

「らくごえいが」プロデューサー



#### 「ビフォーアフター」(原作:ねずみ)

大ヒットした漫画の映画化にあたって、ロケ地探しに苦勞する映画製作会社の社員・林田かるほ(田島ゆみか)。  
追いつめられた彼女は苦肉の策で、上司・左甚六(音尾琢真)を自分の実家に連れて行く。  
さて、かるほと彼女の父(斉木しげる)の企みとは!?



#### 「ライフ・レート」(原作:死神)

死神(安田顕)に、命を救ってもらった上、特殊能力まで授かった男(山田孝之)。  
彼らの間には、一つの約束があった。しかしある日、気の迷いで約束を破ってしまう男。狂いはじめた男の運命と、  
そんな彼と出会ってしまった作家志望の女の子(本田翼)の運命は、いかに。



#### 「猿後家はつらいよ」(原案:猿後家)

映画版「古典落語『猿後家』」の撮影現場にて。“猿”に似ていることがコンプレックスで、  
“猿”という言葉に過剰反応する後家さんと、そこに出入りする商人との軽妙なやり取りが見所の演目。  
撮影はラストシーンを残すのみとなったが、主役がなかなか現場に姿を現さない。  
困り果てたプロデューサー(加藤貴子)は監督(戸次重幸)に、無理を承知であるお願いをするのだが……。



企画プロデュース:田中雄之/ホスプロプロデューサー:田中直毅/脚本:嵯峨悠二、浦上毅郎、敦賀零  
撮影:齋藤領、跡地淳太郎、清水絵里加、陳畑君/録音・整音:堀修生、城野直樹、西垣太郎  
美術:Ice Elloso、栗田志穂、相澤裕美/編集:中西亮太、佐久川満月、和泉陽光、江島香希  
特別協力: Mercedes-Benz IMAGICA Corp. CMer 3D JVTA 録音設備  
制作:東京芸術大学大学院映像研究科/配給:アルグレイフィルム ©2013「らくごえいが」製作委員会

# 2013年4月6日(土) 全国公開!